


地域医療情報誌

医療・介護・福祉の専門誌

P  **Medical**
Pivot

メディカル ピボット

**早期発見・早期治療のために
ドクターからのメッセージ！**

本誌ホームページにアクセスしますと動画で医院の先生方のお話や治療内容が見られます。 <http://www.mp119.jp>

大田区版第5号

年間保存版

内閣府特定非営利活動法人／NPO

やる気がでないのですが…では薬を!

~これだけではいけません!!~



くどうちあき脳神経外科クリニック

院長 工藤 千秋

英国バーミンガム大学
東京労災病院脳神経外科副部長
平成13年くどうちあき脳神経外科クリニック開院
アメリカ脳神経外科学会会員
国際小児脳神経外科学会会員
東邦大学客員講師
英国バーミンガム大学客員研究員
医学博士

地元の先生が教える
病氣と治療

H/P <http://www.kudohchiaki.com/>

感情の乱れをじつと鎮めて、自分の内なる状態を観つめる時をもつことが必要であると強く思います。私のクリニック、私に診察室は、そのような場所でありたいといつも思っています。私自身から発するエネルギーがもしあるとすれば、それを少しでも感じて元気になってくださる方が一人でもいてくださればよいと願っています。私自身、このクリニックへ訪れる方々とのふれ合いの中から元気をいただいています。「お帰らなさい、そして日常の世界へ行ってらっしゃい」

●内観の時と場が必要です。

クリニックには、多くの方がさまざまな悩みを抱えてご来院になられます。皆さん頭痛・不眠・腰痛等の症状を訴えられてのご来院ですが、それ以上に、長い間誰にも話せず、一人で悶々と苦しんでこられたことをひしひしと感じます。私はこのよな方々に接した時、できることならば一つでも二つでも、その苦しみの重石を取り除けるよう、及ばずながら手を差し伸べたくになります。

私たちは毎日それぞれの生活の中で、さまざまな経験をして、その中にいろいろな喜怒哀楽の情を感じます。自分の意思ではどうにもならない病氣以外の体の症状は、感情の表れとして体が訴えている言葉であると感じます。医師がこの言葉を理解できないと、「薬の量だけが増す治療になるのではないか」と思っています。

私のクリニックはこんな会話ができる癒しの場を目指しています。

●栄養療法のすすめ

気持ちが悪く、ドキドキくらくらとめまいがする。寒くて仕方ない。いくつもの病院をまわり、うつ病、パニック障害、時には気のせいといわれてきた41歳の患者さんが来院されました。私も症状からうつ状態と考え、西洋薬と漢方薬の処方を行いました。

しかし一向に症状が軽快されず、私も悩みました。ひよっとしたら、精神的なこと以前に、このような症状をきたす悪い栄養状態に体が陥っているのではないかと考え、もう1度異なる見方での血液検査をさせてもらいました。

その結果、酸素を運ぶ鉄のトラックが極めて低下していました。そこでこれを補うためのサプリメントをお勧めしました。この種の普通の西洋薬では胃腸の調子を崩しやすいので、このサプリメントを勧めたわけです。効果は、私も正直言って驚きました。みるみる症状が回復し4週間後には、今までの抗うつ剤は守り程度に持っているだけで、服用しなくなりました。今までの症状は、栄養素の1つの鉄が足りなかったことによる細胞の酸素欠乏状態だったのです。

我々現代の西洋医学で教育されてきた医師は、この症状がでたらこの薬、あの症状にはあの薬と処方しが

ちです。もちろんこれで治らなかつた時、その原因になる病氣を考えるようにも教育されています。しかしそこで病氣が見つければまた西洋薬です。私のわずかながらの経験からしても、この方法でいくと次から次へと薬が増えてしまい、気がつくこと食事の代わりに薬を食べる状態になってしまっていることが少なくありません。

我々は医学教育の中で、外科ならば切ること、内科ならば病態に合わせた薬に目を向ける傾向が強かったように思います。栄養学というのは、ほとんど臨床的な面から忘れられていたのかもしれない。

普通の治療で治らない時、体の栄養バランスが崩れていることに目を向けましょう。最近では日本でもサプリメントが流行しています。このサプリメントは保険がきかないため、値段にもピンからキリがあり、購入方法もインターネットからコンビニまで、いろいろなところで入手できます。しかし成分や純度の点で、その信頼性には十分な注意が必要です。我々医師がすすめるサプリメントは、価格もある程度しますが成分は確かのはずです。いろいろな症状の多くは、病氣ではないのに栄養のバランスが崩れ生ずることが多いこと、そしてそれは薬ではなく、純度の高い栄養素(サプリメント)を短期間で大量に摂取すると治ってくる場合が高頻度にあることをクリニックではいつもお伝えしています。